

■「セカンド・ステージ・プラン」の進捗状況

取り組みの方向（答申の概要）		これまでの主な取り組み等
1) 文化学術研究の中核としての機能充実		
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい芸術文化創造の中核の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化創造の中核を形成。その機能として <ul style="list-style-type: none"> ・芸術に関する情報を収集、保存、公開する機能 ・グローバルな視点から芸術を研究する機能 ・芸術に関する大学院教育機能 ・芸術文化の振興と発展に携わる人材養成機能 ・展示や公演など多様な事業の展開機能 	<ul style="list-style-type: none"> ○アートアンドテクノロジー国際会議、けいはんなメディアコンサートの開催などデジタル文化への取り組み ○ATR等における芸術研究の積極的展開 ×国立総合芸術センター（仮称）
<ul style="list-style-type: none"> ・文化遺産の保存・活用の中核の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存・活用の中核として <ul style="list-style-type: none"> ・文化遺産保存修復機能 ・文化遺産総合研究機能 ・文化遺産情報機能 ・文化遺産に関する国際交流機能 ・文化的遺産に関する歴史体験機能の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○平城宮跡地区での大極殿正殿など復元整備 ×国立文化財総合機構（仮称）構想
<ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館関西館等における機能の高度化 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館関西館、勤労体験プラザの早期開設 ・マルチメディア化を進めるなど諸機能の高度化 	<ul style="list-style-type: none"> ○国立国会図書館関西館の開館とシンポジウム開催 ○私のしごと館の開館
<ul style="list-style-type: none"> ・人類的課題の解決を目指す学術研究の中核の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・（財）国際高等研究所、(株)けいはんななど諸機関の活動強化 ・中核的研究施設の立地推進 ・公・民の研究機関の立地誘導 ・NPO（民間非営利組織）型研究企画・研究支援機能の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際高等研究所等における国際的な共同研究の進展 ○NICT など新たな中核的研究施設の立地 [62 施設(95 年度)→82 施設(05.08)] ○けいはんな ITS 事業、ギガビットラボ、NICT けいはんなオープンラボなど、国の共同研究プロジェクトの実施 ×NPO 型研究企画・研究支援機能 [研究者数：3,830 人(95 年度)→5,102 人(04 年度)]

<ul style="list-style-type: none"> ・先導的大学機能の実現に向けた取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の誘致、大学の新たなあり方を提示する取り組み ・創業型大学機能の充実や、大学間の連携システムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成12年度より6大学連携市民講座の開催 ○同志社大、奈良先端大による21世紀COEプログラムの採択 ×新たな大学の誘致 ×大学間の連携システムの構築
<ul style="list-style-type: none"> ・新産業創出を支える産学官連携の中核の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・産・学・官連携による共同研究プロジェクトの推進 ・ベンチャー型新産業創出活動のモデルの取り組み、研究成果を活かす産業の立地誘導 ・新産業創出に係る研究テーマへの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ○知的クラスター創成事業の実施、成果実現。（中間評価で全国2位の評価） ○けいはんな学研都市知的特区の認定 ○立地大学や研究所でのリエゾン機能の進展 [NAIST:研究協力課産学連携担当、同志社大学:リエゾンオフィス、ATR:技術リエゾンセンター、RITE:研究企画グループ] ○京都府けいはんなベンチャーセンター（00年6月開設、現在31社入居）、大阪府津田サイエンスコアにおけるベンチャーラーム（03年4月開設、現在3社入居/全4室満室）の設置
2) 世界に開かれた文化学術研究交流の推進		
<ul style="list-style-type: none"> ・文化面での交流・連携、 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術振興、文化財の保全・活用及び地域文化活動等について世界へ情報の提供、人材を養成する機能の充実 ・国際的なイベントの開催など文化の国際交流活動の推進、国立国会図書館関西館を活用した文化情報ネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○科学技術政策に関する国際会議「ICTPI KANSAI2002」等国際会議・シンポジウム等の開催 ○国際サイエンスパーク協会への加盟とPR活動の実施 ×芸術、文化における全国及び世界への情報提供、それらを担う人材育成 ×国立国会図書館関西館の活用
<ul style="list-style-type: none"> ・研究交流システムの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・関西における諸施設、諸機能とのネットワーク化 ・より活発な研究活動の展開 ・学際的な研究交流の場の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○知的クラスター創成事業による研究活動が展開（02年度から05年5月末までの成果） 特許出願150件、公的事業化プロジェクト採択14件、大学発ベンチャー創出8件、技術移転15件、商品化11件 ○けいはんな研究論文アブストラクト、COEホームページ、けいはんなメーリングリストの定着

			○けいはんなトップカンファレンス、若手研究者交流会の開催 ×近畿リサーチコンプレックスの中核としての役割 ×「けいはんな学会」等のシンボリック的取り組み
・新産業創出面での交流、連携	・新産業のシーズをインキュベータに提供、研究の成果を産業分野に提供 ・新産業インキュベーション活動の支援、技術評価、技術指導、人材育成等の機能の強化		○各種産学交流会の実施 ○大学、研究機関によるリエゾンオフィスの設置 ○けいはんなベンチャーセンター等、インキュベータ施設の整備 ×各地のインキュベーション拠点、公設試験所等との連携
・パイロット・モデル都市としての取り組み成果の発信	・モデル的なまちづくりの状況について、全国、全世界へ情報の収集・発信		△個別的にテストフィールドとしての取り組みの実施
3) 文化の薫る、住みよいまちづくりの推進 ○ 生活者、研究者の視点に立ったまちづくり			
・安全、快適で便利なまちづくり	・歩いて楽しいまちづくり、高齢者等に配慮した人に優しいまちづくり、生活者及び研究者の利便性の向上を図るための都市生活支援機能、研究活動支援機能の強化		△ 生活利便施設等の充実 [文化学術研究地区の人口] 4.6万人(95年度)→7.4万人(04年度) [学研都市全体の人口] 19.5万人(95年度)→22.4万人(04年度)
・良質な住宅の供給と健全なコミュニティの形成	・住宅の質及び居住環境の向上 ・コミュニティの育成及びバリアフリーの実現		○概成クラスターに住宅地の整備（光台、精華台、木津川台等）
・各地域の個性を活かした一体的なまちづくり	・未着手クラスターについて事業化に向けての検討を順次進める ・各クラスターでの個性あるまちづくり ・三山木、祝園駅西、木津駅前など主要駅を活かした地域拠点の形成 ・コミュニティセンター、シンボリック空間の整備		△各クラスターの個性あるまちづくり △主要駅前の整備（祝園駅西区画整理事業：平成17年3月駅前広場概成、平成17年度屋根付き歩道等完成予定） ×未着手クラスターの残存 [文化学術研究地区(3,600ha)の事業着手面積] 2,026ha(95年度)→2,364ha(03年度)事業着手率65%

<ul style="list-style-type: none"> ・都市センターの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市センターの形成 ・都市センターの配置については、精華・西木津地区に加えて、新たな地区への展開の可能性について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○精華・西木津の食彩プラザのオープン ○国会図書館前の大型商業施設の出店 △精華・西木津では施設の立地進捗
<p>○ 交通基盤及び情報・通信基盤の整備</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通ネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄りの駅とクラスター、あるいはクラスター間相互を結ぶバス路線網の整備。 ・JR 学研都市線、近鉄京都線など既存鉄道の増便等利便性向上、京阪奈新線の早期実現に向けた取り組み ・中心クラスター（精華・西木津地区）をサービスする分岐線等の必要性の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○けいはんな線の開通(06年3月27日予定) ○鉄道駅とクラスターを連絡するバス路線の増便 ○既存鉄道の増便等利便性の向上 ×精華・西木津と平城・相楽間の公共交通ネットワーク（バス路線）
<ul style="list-style-type: none"> ・道路ネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2京阪道路など広域幹線道路の整備促進 ・広域幹線道路へのアクセス道路の整備促進 ・クラスター間連絡道路、鉄道駅とクラスター間の道路等の整備促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○第二京阪道路の部分供用開始(H15.3、巨椋池～枚方東) ○山手幹線の一部供用開始 ×山手幹線、学研都市連絡道路のネットワーク形成 ×都市内主要施設を結ぶ道路ネットワーク形成
<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信基盤の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○京都デジタル疎水 NOC の設置
<p>○ パイロット・モデル都市としての取り組み</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいを感じるまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種コミュニティづくりの促進 ・自己研鑽と自己実現の場の提供 ・創造的人材を育成するため、特色ある教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種市民活動は成熟 ×特色ある初・中等教育の実現
<ul style="list-style-type: none"> ・環境と共生、調和するまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・省資源（節水を含む）・省エネルギー型都市等地球環境への負荷の少ない都市の形成と環境調和型ライフスタイルの形成 ・自然調和型都市の建設。地球環境産業技術研究機構（RITE）との連携 	<ul style="list-style-type: none"> △個別的な環境共生技術の導入等の取り組み、環境調和型ライフスタイルの形成は今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・文化創造の中核にふさわしい環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な文化活動空間の確保と自発的な文化活動を促進 ・けいはんなの自然、歴史、風土を活かした個性豊かな都市づくり、緑化、電線の地中化及び沿道施設、建築物のデザイン誘導等による良好な都市景観の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ラ・プリマベラ、オータムフェスタなどの文化イベントの継続的開催 [オータムフェスタイベント数：41(96年度)→125(02年度) 参加人数：14.4万人(96年度)→26.7万人(02年度)]

			<p>○NPO による舞台芸術トレーニングセンターやけいはんなフィルハーモニー管弦楽団による文化活動の展開</p> <p>○京都府の要綱等による景観誘導</p>
	<p>・高度情報化を先導するまちづくり</p>	<p>・マルチメディア振興センター等と連携し、モデル的、実験的な取り組みの推進。CATV 事業の推進</p>	<p>○融合型公共交通システム「けいはんな I T S 実用化研究開発事業」(H13~15 年度)</p> <p>○奈良交通「バス位置情報提供システム実験」(H16.3.18 サービス開始)</p>
	<p>・国際交流モデル都市</p>	<p>・外国人研究者やその家族も利用可能な住宅の確保、外国人にとって便利で安心して住み、活動できる楽しいまちづくりの先導的な推進</p>	<p>×外国人研究者等の生活環境整備</p> <p>[外国人研究者：80 人(95 年度)→215 人(04 年度)]</p>